芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年八月度 入選句 (投稿総数千七百二十八句・一般投句数七百五十句)

特選 選者 田中青志

大西 日地面を叩く負け投手 養老郡養老町 田中 紫香

夏の西日は西に傾けども堪え難い暑さである。この夏、地面を叩いて一球に泣いた投手が何人いたであろうか。この投手もその中の一人、この涙がこの投手を大きくするのだ、泣けばよい、そして人間として大きくなろう。

挽ぎ立ての西瓜の顔を拭ひけり 大垣市 大西 誠一

西瓜は叩いて求める、音の反応で熟れ加減を占うのである。挽ぎ立ての顔を拭いてやるのは、よくぞここまで育ってくれたという労いの所作である。拭われたこの西瓜、縞模様の鮮やかな中の赤さを彷彿させる。

遅れ来る音に驚き大花火 大垣市 片山 洋紅

わっ、きれいだ、思わず手を叩く。そのあとに来る大音響にびつくりだ。腹の中がひっくり返るような音である。美しさの代償は衝撃的ではあるが心よい余韻となつてフィナーレとなるのである。

秀逸

手を浸す泉に全身洗はれる 愛知県名古屋市 小松 とみゑ

戦争を語り継ぐ会 蝉しぐれ 大垣市 木村 一句

若き娘のまつげの長さ合歡の花 大垣市 本郷 陽子

鮎漁の網投ぐ川の瑠璃色に 大垣市 喜田 守

噴水に正午の高さありにけり 大垣市 川瀬 幸子

黙禱のまなうら暗し 蝉しぐれ 大垣市 矢橋 郁子

掬はれて家族となりし 金魚かな 安八郡神戸町 高橋 日出美

伽羅藪を上手に煮ても一人かな 大垣市 伊藤 京子

軽トラの荷台から売る西瓜かな 大垣市 大井 公夫

七夕や平凡という願いごと 神奈川県藤沢市 門坂 螢

入選

敬老日ゐつしか妻をおぼあちゃん
 一斉にこの世を急かす蟬しぐれ
 墓洗ふ丸めた背中母ゆずり
 芋の露こぼして行きぬ朝の風
 曇り空向日葵むきを失しなへり
 そつと開く子の掌に天道虫
 打ち水に微かな風の起こりけり
 揚花 火火の見櫓の残る里
 葦原を揺さぶつてをり行々子
 矢を追ひて視線の動く滝開き

北海道札幌市 江田 三峰
 養老郡養老町 田中 秀子
 福井県福井市 三ツ山 しげ子
 大垣市 川口 千代子
 大垣市 高木 治子
 大垣市 本郷 陽子
 大垣市 山田 千歌子
 大垣市 鶴田 信子
 不破郡垂井町 服部 智恵
 不破郡垂井町 久保田 紘義

入選

風ほめて扇子をたたむ山の宿
 エアコンの助手にまはりし扇風機
 風の来て目深にしたる夏帽子
 太陽に叫ぶひまはり畑かな
 帰る家あるはしあわせ炎天下
 蓮の葉に風水玉のころころと
 終戦日今朝の伊吹は雲を脱ぐ
 端居して聞ける話でなかりけり
 その辺にまだ居りそうな蛇の皮
 盆供養親に似た顔あちこちに

大垣市 棚橋 みさを
 大垣市 藤井 美奈子
 大垣市 春日井 勝代
 愛知県日進市 松田 まなぶ
 大垣市 永井 田鶴子
 大垣市 岡田 あや子
 大垣市 神野 武彦
 大垣市 大井 公夫
 大垣市 田村 久夫
 大垣市 河合 秋信

選者吟

人の世も花火の開く間なりけり

青 志